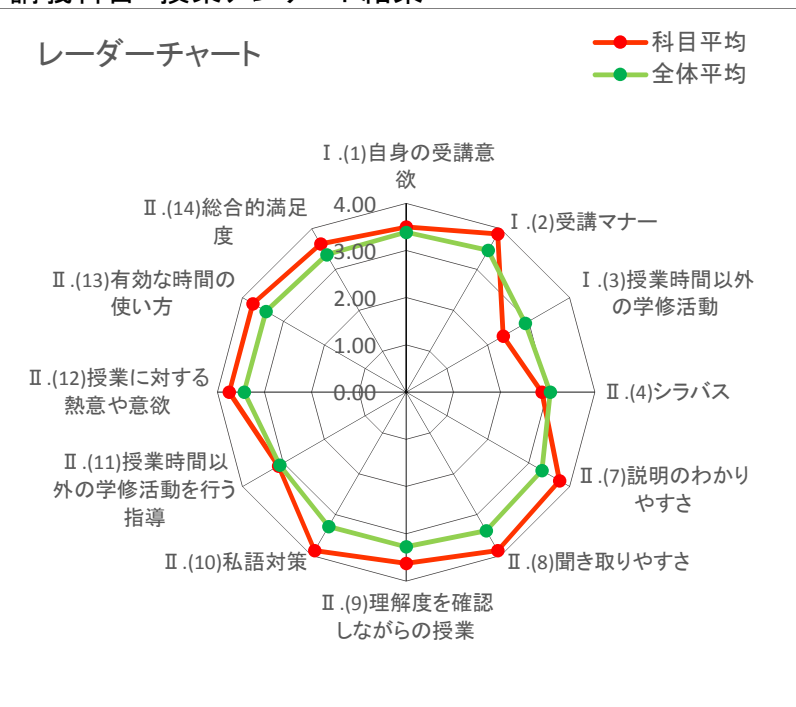
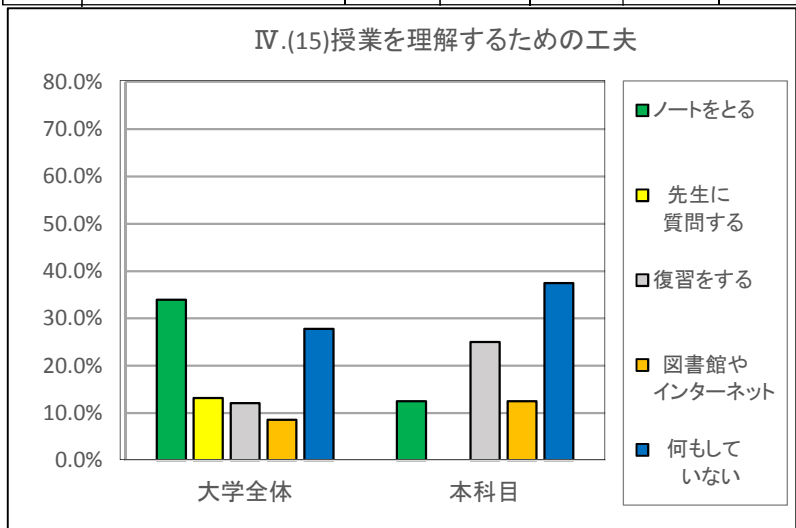


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	12.5%	0.0%	25.0%	12.5%	37.5%



アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

	設問No	科目平均	全体平均
受講姿勢	I.(1)	3.50	3.39
	I.(2)	3.88	3.47
	I.(3)	2.38	2.91
受講内容・方法	II.(4)	2.88	3.05
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.75	3.32
	II.(8)	3.88	3.39
	II.(9)	3.63	3.27
	II.(10)	3.88	3.28
	II.(11)	3.13	3.09
	II.(12)	3.75	3.43
	II.(13)	3.75	3.43
	満足度	II.(14)	3.63

授業年度	2014年度 後期
時間割番号	44307
科目名	日本人の労働を考える
教員名	

①授業計画の達成度について

設問4からシラバスに示された授業計画と実際の授業運営の関係が読み取れる。シラバスと授業の内容が乖離していたという評価である。講義の前提となる歴史的事実に対する認識がほとんどなかったため、この点を解説することに時間を割きすぎた結果だと考えられる。ただ最初の授業でシラバスを読んだかどうか確かめたところ、ほとんどの学生が読んでいないということであったので、学生がどのような基準で回答したのか少々疑問である。難易度については設問5, 6から読み取るところ、他の授業に比較すれば難しくも易しくもないという評価である。学生自身が考えることを重視した授業であったので、受講生の反応を見ながら調整していったが、結果的にはうまくいったということだろう。

②授業の進め方について

設問7~9については授業の進め方についての技術的な調査であろう。これらは基本的な事項であり、4点満点中3点台後半の評価を得られたのは当然とはいえ嬉しく思う。設問10の私語対策が高い評価を得ているが、これは担当者の能力というよりは受講生の数が少なく、緊密なコミュニケーションが私語を結果として減らしたということであろう。一昨年はこの項目が唯一全体平均を下回る項目であったので、昨年に引き続き高い評価であること自体はほっとしている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

総合的満足度は比較的高い。受講生に合わせて内容を修正したことが奏功したのかもしれない。ただし、本来の授業計画通りに講義を進め、その上で高い満足度を得ることが本旨であることは言を俟たないことであり、来年度は当初の授業計画を遂行しつつ、満足度をさらに高める工夫をしたい。おそらく来年度は本年度よりさらに少人数になると予想されるのできめ細かい対応をすることが可能になると考えている。

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.25	3.26
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.58	3.28
II.(4)~(13)		
総合的満足度	3.63	3.36
III.(14)		